

秋の陣 9月 その3

今日は娘の誕生日です。昨日は、ドラえもんの誕生日です。

娘が、朝の4時半に静岡の妻の実家の近くの産婦人科医院で生まれたとき、ラマーズ法を繰り返しながら付き添って、生まれてくる瞬間に出会いました。まず泣き声と思ってはみたものの、へその緒が首に巻き付いて、泣き声が遅れハラハラしていると、院長が娘を逆さにして背中をたたき、すると、大きな産声を上げました。

自分の生まれたときのことを母から聞いていたので、こんなところまで遺伝するのかと不思議な気持ちになりました。

産湯を使ったのちに、白い産着にくるまれてからも、両手を空にかざして、朝までずっと、その両手を動かしていたのを思い出します。

保護者の方々も、きっと私と同じような思い出があると思います。子供は、一人一人がそれぞれに、周囲の子供への様々な思いと限りないエピソードに彩られながら、育っていくものであると思います。

最終的に、次なる段階を何度も踏んで(小学生、中学生、高校生、大学進学、就職、結婚などなど)、私の手元から巣立っていった娘の次なるステップについては、配偶者と本人に任せて、私は、毎年繰り返されていく、高校生の生きざまと生きていくことの悩みと親からの巣立ちへの準備と、毎日のいろいろなところからの視点を基に、一人一人を支えていくことができると考えております。

明石家さんまが「生きてりゃ丸儲け」の意味で、「いまる」と娘を命名したその考えは正しいことであると心から思います。命名の中にある、命名という行為における尽きせぬ子どもへの思いが込められているものでしょう。

私の名前は、「武彦」です。父親が「武」ということから、こんな名前になったことがうかがわれます。弟の名前は、「幸則」というので、音からも意味からもちょっと私とは違って、しゃれた名前だなと思っていました。

今後、私の孫への命名についても、どんな名前になるか楽しみです。もともと、私が命名することはないでしょうが。

女の子だったら「～子」が大半だった昭和の時代とは違って、平成になってからは、様々な命名がありました。簡単には読めない名前もありました。簡単に読めないことで印象深くする意図もあるのかもしれませんが。その子については二度と読み間違えることはないでしょうから。

閑話休題 ドラえもんは何歳でしょう。

誕生日が2112年9月3日なので、マイナス93歳です。

